

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 「第65回新潟県公民館大会・新潟大会事例発表」

4.5

- 2 トピックス 「関ブロ・全国大会開催される」
- 3 視点 「公民館活動と少年自然の家」 新潟県少年自然の家所長・倉松 栄
- 3 ひろば 「みんなが輝ける公民館」 見附市・佐野真砂子
- 6 実践記録シリーズ 「さんじょう一番星育成事業」 三条市生涯学習課
- 7 サークル交流 「ボケ防止と仲間作り」(新発田市) / 「白鳥のように見守られて」(阿賀野市)
- 7 素顔拝見 濱崎 賢一さん(佐渡市) / 牛木 治さん(南魚沼市)
- 8 お元気ですか 「味わい深い人生を！」五泉市・松尾 幸一さん
- 8 恵贈資料紹介 ネットワーク



「むかしばなしと昔のあそび」(弥彦村)

表紙解説

弥彦村指定文化財の旧武石家住宅で11月に開催。大勢で囲炉裏を囲みながら、昔の暮らしを体験します。

関ブロ・全国大会開催される



平成26年10月16日(木)17日(金)に関東甲信越静公民館研究大会と全国公民館研究集会在埼玉県熊谷市他で開催されました。新潟県の参加者は23名で、地元を除くと平均的な参加者数でした。初日の午前中は関ブロ大会。午後の全国大会の日程上、表彰などの式典を中心に行われました。表彰式では、前県公連会長の湯浅康夫氏(現新発田市中央公民館長)が公民館の発展に大きな功績があったことから全国公民館功労賞を受賞しました。



小学生2人

午後の全国大会では、開会式で全公連新会長・石川正夫氏、新任の文部科学省生涯学習局長、埼玉県知事など多数の方々のあいさつがありました。アトラクションでは「埼玉県指定無形文化財・小鹿野歌舞伎」が披露されましたが、その前口上に女子児童2名が登場し会場から大きな拍手が送られました。



森村 誠一氏

続いて作家・森村誠一氏の記念講演が行われました。80歳を超えているとは思えない元気いっぱいの講演でした。

印象的なことば
○東日本大震災のときほど公民館の必要性を感じたことはない
○社会参加の拒否は誰からも受け入れられない存在になる
○60代の自由。長をはずせない人生。70代で初めて長を切り落とす
など興味深い話の連続で会場を沸かせました。



主催者あいさつをする佐藤会長

夜はレセプションが行われ正副会長全員と事務局の6人が参加しました。出し物などはなくただ一心に飲む会でしたが全国の参加者と交流を深めました。2日目は終日分科会でした。第一分科会では、佐藤実県公連会長が主管ブロツクの副会長であることから主催者として分科会に参加しました。

指導・助言者は新潟経営大学教授「中島純」先生でした。午前中は事例発表と簡単な質疑応答。昼食を挟んで午後には中島先生の講話でした。



軽妙な語り口 中島 純氏

講話の要旨は
・現代公民館はまちづくりにつながる事業を求められている
・公民館の人材スカウトが必要
・重要な時代コミュニケーションの必要性
・あと5歳若く見られる術、田上ゆうゆう塾紹介
・現代の病は孤独死、高齢者犯罪増加、無言社会
歌あり、ものまねありの楽しい90分でした。最後に、これからの公民館のターゲットは「男性」。つながりがなく社会で生きる男性をどのように公民館に呼ぶか。知恵の出し合いです。と結ばれました。(田原)

視点

「公民館活動と少年自然の家」

新潟県少年自然の家所長 倉松 栄



当自然の家は、胎内市にある青少年教育施設です。野外活動等の体験を通し、心豊かな青少年を育成することを目的としています。

春は中学校の利用が多く、赤松林に囲まれた自然豊かな環境で野外炊さんやオリエンテーリングで仲間作りを行っています。六月に入ると胎内川河口でのカヌー体験が始まります。キャンプファイアも行われ、子どもたちの歓声が響き渡ります。公民館活動で利用していただくことが多いのは夏休みの時期です。秋から冬はうどん打ちや餅つき、歩くスキー等で幼稚園や保育園、子ども会、PTA等の利用が多くなります。

人間関係の希薄化、地域の教育力の低下等が指摘されている昨今、地域の子どもの健全

育成を担う公民館活動は大変重要と考えます。

当自然の家を利用して行われている公民館活動は学校の活動と違う特徴があります。それは、学校の多くが単一学年で活動するのに対し、公民館では年齢の異なる集団で活動していることです。学校を離れ、異年齢集団の体験活動を行うことでより子どもたちの社会性が育つことが期待できます。

子どもの頃の体験活動は、体や記憶に刻まれ、様々な場面で生きたり考えたりしています。地域の子どもたちを健やかに育てる公民館活動のますますの充実を願っています。そのためにも自然の家の活用を御検討ください。スタッフがお手伝いさせていただきます。

H O T N E W S

掲 示 板

下公連研修会開催

今年度の下越地区公民館役職員等研修会が、新発田市生涯学習センターを会場にして平成26年10月1日(水)に87名の参加者で開催されました。



分科会



西村 純子氏

講演会では「日々の暮らしを愛おしむまちづくりを」と題して、フリーマガジン編集長・西村純子氏が講演を行いました。

昼食後は粟島浦村、五泉市、阿賀野市が事例発表をして分科会協議が活発に行われました。

「生涯学習ボランティア養成講座」を受講し、終了後ボランティア団体「実生の会」に入会して十数年が経ちました。「実生の会」は、市民の目線でまちづくり活動に取り組んでいる団体です。

職種・年令さまざまなかの仲間と公民館を母体として、得意な分野での講座の企画、運営を行っています。公民館に足を運ぶようになり活動を通して市民との出会いでさらに仲間が増えていきました。そんなすばらしい仲間との出会いに感動しながら、どんだんのめり込む自分にビックリです。それまでの私は、一言で言えば「仕事人間」的な生活でした。こんな時間の使い方があったのか、と思いつながら仕事を終えてから公

見附市公民館運営審議会委員 佐野真砂子

「みんなが輝ける公民館」

ひろば



公民館に出掛るのが楽しくなり、その楽しさはなかなかのものでした。

やりたい事もいっぱいあります。市民のみなさんから喜んでいただける事が原動力となり、仲間とは丁度よい距離感でいられる事が活動を続けられる秘訣とも思っています。

いつもあたたかく見守ってくれている家族に感謝し、社会から必要とされる有難さを忘れることなく第二、第三の人生を歩んでいきたいと思っています。



「ための取り組み実践事例」



医療情報の製作活動

- ③災害時情報伝達方法の見直し
- ④緊急医療情報システムを構築
- ⑤避難所マニュアルの見直し
- ⑥隣近所から始まる防災を目指す
- ⑦地域内めぐり、あいさつ運動で安心・安全
- ⑧災害時の対応マップ作成
- ⑨防災意識の向上

災害時には様々な事態が何層にも重なります。そのためお互いが助け合える仕組みや関係づくりをすることが必要です。その活動として、町内会、各部会、各団体の活動をきめ細かくかつ継続的に推進していきたいと思ひます。

3 地域防災教育のために公民館ができること

村上市中央公民館
主任 岸 宗光



村上市は近年大きな地震災害を受けていないことから、災害に対する危機意識は高いとはいえません。「いざという時」のために、日ごろの防災教育が重要です。

(1) 学校教育では

従来の避難訓練から地震と津波を想定した避難訓練を重視するようになりました。

(2) 行政や地域では

村上市では、防災に関する取り組みは主に総務課・危機管理室が担当し防災情報提供や防災訓練等を行っています。地域では自主防災組織をつくり、避難訓練や防災の学習活動を行っています。

昨年の総合防災訓練では市民14,000人が参加。

平成26年3月に「村上市津波ハザードマップ」を作成し市民に配布しました。

(3) 公民館では

公民館では、「防災」をテーマに講演会を実施しました。これは「村上市民講座」や「にいがた連携講座」と連携した事業です。

日時：平成26年6月8日(日) 13:30～

講演：「新潟地域の津波災害を考える」

新潟大学准教授・卜部 厚志

また、村上市地区公民館では災害時の避難所生活を想定して青少年の宿泊体験を実施しました。参加者は青少年の体験活動を実施している「村上健民少年団」で中学生が主体です。床に寝たり仲間と助け合って生活する災害時の疑似体験をしました。



疑似体験活動の中学生

防災に強いまちづくりは、防災担当部署だけでは実現できません。公民館は、社会教育の立場から、市民への学習機会の提供をとおして防災に関する啓発活動を担う必要があります。「自分の命は自分で守る」「地域住民の命は地域住民で守る」ことは基本ですが、そのためには日ごろからの地域での結びつきが大切です。地域での声かけやあいさつ運動の実施、住民参加の避難訓練や救急法講習会の継続も重要です。

公民館では、防災だけではなく、様々な地域課題や現代的課題について適切な学習機会を住民に提供し取り組みを進めなければなりません。村上市では、「公民館のあり方」を具現化していく過程のなかで公民館の必要性や重要性を地域とともに考えていきます。

平成26年7月17日(木) 新潟市江南区文化会館
県大会午後の事例発表から要旨を抜粋 (田原)

特集

第65回新潟県公民館大会・新潟大会事例発表

「地域防災力向上の

7月17日(木)、新潟市江南区文化会館で第65回新潟県公民館大会が開催されました。

大会テーマは「地域防災力向上のための公民館の役割」で、新潟地震、中越地震、東日本大震災などが起きて以降、地域の防災についての関心が高まっている中、各地区から防災と公民館の実践事例が発表されました。

県大会では、大会終了後の記録集の発行がないことや記録を残すという意義もあることから、今回特集として下記3人の事例発表のまとめを掲載します。

1 「元気の出るふるさと講座」で 中山間地域から上越市を元気に

上越市教育委員会
生涯学習推進課 公民館
社会教育主事
大坪 美樹



上越市の公民館では、防災に役立つ「元気の出るふるさと講座」を実施しています。この講座は(1)地域づくり講座 (2)地域リーダー育成講座の2講座で構成され、地域が直面している課題や地域の特徴を生かした集落づくりを学びあうことで、仲間作りを進め、地域リーダーを育成します。地域コミュニティの強化を図りながら、公民館を核として地域の支援づくりを支援することを目的に活動しています。地域を知りお互いの顔がわかることは、防災では共助の意識が高まります。また、リーダーシップを発揮できる人材を発掘・育成し、防災活動で地域の核となり自主的な取り組みが出来るようにすることも大きなねらいです。

(1) 地域づくり講座

地域づくりや人づくりの必要性について意識喚



雪太郎大根収穫体験

起し、地域を考えるきっかけとする講座です。それを全市の課題として捉え、参加者を全市民とすることで、様々な地域の現状や課題を知り、自分の住む地域について考える契機とします。

(2) 地域リーダー育成講座

地域づくりの中核となる地域リーダーを育成する講座です。

講座の活動をとおして地域を知り、地域の課題解決のための事業を企画・実施する力を育成します。講座の運営は、参加者の希望を取り入れ、市の担当課と連携した活動を行います。参加者は主に中山間地及び近隣住民で、地域ごとに活動テーマを設定して3年後には自主活動が出来る団体にすることが目標です。

今後は、中山間地の抱える問題を上越市全体の課題として捉え、学びを行動につなげて地域が結びつくことで、地域コミュニティを基盤とした防災力向上・強化ができる講座の組み立てを考えていきたいと思っています。

2 顔の見える活動で災害に強い地域づくり ～「地域の輪づくり」を防災力向上につなげる～

柏崎市北鯖石
コミュニティー振興協議会
主事 間島みよ子



柏崎市北鯖石地区は、公民館機能を備えた「学びの場」の公民館、「学習成果を生かしたコミュニティ活動」を目的にした地域に根ざした活動を行っています。

(1) 中越地震からの経緯

平成16年の中越地震では、コミュニティレベルでの自主防災組織の結成が急務であると感じましたが、まだまだ全住民の意識はそこまで至りませんでした。平成17年の水害を教訓に「避難所マニュアル」を作成しました。平成19年中越沖地震では、発生直後から町内会や地域住民と連携を図りながら要援護者への避難誘導と支援、避難所開設を行いました。これを契機に、全町内会で自主防災組織が立ち上がり、全住民の防災に対する意思統一が図られました。

(2) 防災力を高める活動

- ① 防災意識を高めるワークショップ
- ② 地域防災訓練の実施

実践記録

200

シリーズ

さんじょう一番星育成事業

三条市生涯学習課

三条市では、平成26年度から学力、スポーツ、文化・芸術の分野で高い資質と意欲を兼ね備えた子どもたちの能力をさらに高める取り組みの支援を行う「さんじょう一番星育成事業」を実施しています。学力は、教育委員会小中一貫教育推進課が、スポーツは、福祉保健部健康づくり課スポーツ振興室が、文化・芸術は、市民部生涯学習課がそれぞれ担当することで業務を行っています。

この度は、生涯学習課が担う「文化・芸術の一番星育成事業」についてご紹介いたします。

本事業は、2つの事業から構成されており、「文化・芸術に係る活動経費に対しての助成事業」と「市が外部の一流講師を招聘して開催するピアノ教室、デッサン教室」であります。対象とする子どもたちは、小学校5年生から高校3年生までで、コンクール等で上位入賞実績、有段資格を有し、高い向上心を持って将来一番星として輝きたい人を対象としています。



前者の助成事業は、音楽、美術、茶道、書道など募集要項に基づいた個人又は団体への活動に対して経費の一部（対象経費の1/2補助で、個人12万円、団体25万円を上限）を助成します。後者のピアノ教室、デッサン教室は能力の更なる開花・向上を目指したものです。

今年度始めたばかりの事業であったため、いざ事業実施の段になると詰めていたつもり事項が全く機能せず、詰めが甘かったことが判明したり、実施要綱作成の段で、学力、スポーツ、文化・芸術を別々ではなく、3課連携して一つにまとめることの問題や、ピアノ教室、デッサン教室の一流講師選びが難航するなどハラハラ・ドキドキの連続でした。

このような苦労の連続の中にあっても、文化・芸術に秀でた子どもたちを一人でも多く育成することが三条市の文化振興の推進にもつながるとの強い思いで文化振興係3人の係員ともどもがんばってきま

した。

その甲斐もあってか、ピアノ教室は、国内外の有名オーケストラと多数共演され、日本モーツァルト音楽コンクール本選会で審査委員を務められるなど輝かしい経歴をお持ちの国立音楽大学準教授、久元祐子先生から、また、デッサン教室は、国内外の美術展で数多くの受賞経歴を有する武蔵野美術大学の遠藤竜太教授と水上泰財教授からそれぞれお引き受けいただきました。



指導体制が決まり、選考会を通して選ばれた市主催のピアノ教室は5人、デッサン教室は10人のレッスン生が選ばれ、事業が実施されています。また、活動経費への助成事業については、個人部門で5人、団体部門で2団体が決定したところです。

ピアノ教室の久元先生は、音楽を通しての親子どもの触れ合いを増進させるコンサートを過去にも実施されており、子どもたちへの指導には定評のある先生で、こちらも見ている「なるほど、ああいうやりかたで教えるのか…」など、こちらが感心させられたり、驚かされたりとの連続でした。中央公民館大ホールにあるスタインウェイのピアノを子どもたちが弾く前に暖めようと一生懸命弾いておられた姿やピアノから流れる調べは、まさに一流音楽家のものでした。うっとり聞きほれたのは私だけではなかったと思います。

また、デッサン教室では、絵を見ているのが何よりも好きだという遠藤、水上両先生は、技量の違う小学生から高校生までの受講生に対して熱心に教えていただきました。このように2つの教室の底辺に流れているのは、講師の先生方の熱い子どもたちへの思いであると深く気づいたと思います。

本事業は、始まったばかりのヨチヨチ歩きの事業ですが、今後とも各大学と先生方の指導を全面的に受けて事業の進化・拡大を図っていきたく考えています。

ボケ防止と仲間作り

新発田健康麻雀クラブ

昨年から活動を始めました新発田健康麻雀クラブです。今までの麻雀は、煙草の煙りが室内に充満しお酒を飲みお金を賭けて徹夜するでしたが、吸わない飲まない賭けがないの麻雀クラブです。年をとると外出して人と出会う機会が少なくなりますが、牌を通じて指の運動をすることから頭を使いますのでボケ防止になり仲間作りにもなるのです。

月二回集まって午後から4時間卓を囲んでいます。新潟健康麻雀協会から村畑先生を



呼んで初心者にも分かりやすく教えていただき今では各卓から笑い声がでるようになりました。今日は頭を使ったのでよく眠れそうだね?などの会話を交わして楽しんでいます。

新発田市・新発田健康
麻雀クラブ
杉原 平次 記



白鳥の白鳥の白鳥

阿賀野市ジュニア合唱団

こーいこーいよってこーい
白鳥たちよこーいこーい
これは阿賀野市瓢湖の白鳥
たちを歌った合唱組曲です。
毎年七月に行われる合唱祭
で、ジュニア合唱団の子ども
たちは市内のおかささんコー

ラスの皆さんや来場された方々と一緒に、この曲を和やかに歌っています。

団は「合唱を通じて心豊かに育ってほしい」との願いから発足し、十二年目を迎えます。小・中学生の団員はまた毎年十一月、市民が主催する「ふれあいステージ」で市内の様々な文化活動に親しむ子どもたちと共に発表します。瓢湖の白鳥のように、地域の人たちに見守られていることに日々感謝し、今後も楽しく活動していきたいです。



阿賀野市・阿賀野市
ジュニア合唱団
伊藤 明子 記

4月から南魚沼市中央公民館の新しい顔として席を置いている牛木治さんを紹介し

ます。愛称“牛ちゃん”と一部の人たちからは呼ばれているごとく、常にマイペースで地道に業務をこなしている姿の反面、スタッフとして数々のイベントや催し物にたずさわってきた経験からは今後公民館職員として必ず活躍してくれるものとの期待感いっぱいです。牛木さんは現在、係の統括者として公民館の運営にたずさわっています。本人曰く、ゆくゆくはイベントの打ち上



南魚沼市中央公民館
牛木 治さん

げ等で鍛えた(笑)幅広いレパートリーを持つと自負するカラオケの腕を披露すべく芸能祭等への出演をひそかに狙っているそうです。早くその日が来ればいいなあと思いつつも、まずは係の飲み会で披露してくださいね(笑)。公民館直轄のわか芸人の誕生も近いかな(笑)。期待しています。今後とも個性を活かしてがんばってくださいね。

(南魚沼市中央公民館 笠原 正俊 記)

佐渡市佐和田地区公民館の濱崎賢一さんを紹介し

ます。濱崎さんは昨年の8月から係長として、佐和田地区の公民館事業・社会教育事業を担当しています。常に公民館を利用する市民の目線に立って事業の企画・立案を行っており、毎回試行錯誤を繰り返しながら日々奮闘しています。



佐渡市佐和田地区公民館
濱崎 賢一さん

これからの時期は地区の文化祭・芸能祭など大きな事業が続きます。土日などのプライベートの時間も削って何事にも全力で取り組む濱崎さんですが、もう少し自分の時間も大切にしてくれぐれも無理はせず、健康だけには気をつけてほしいと思います。

(佐渡市佐和田地区公民館 小松 賢和 記)

素顔 顔 拝見

惠贈資料紹介

「Comp pass」9月号

「Comp pass」は新発田市の魅力を紹介するタウン情報誌です。下公連研修会の講師が編集長・社長の西村 純子氏であったことから月刊発行「Comp pass」を寄贈していただきました。



新発田は歴史と文化のまちとして知られていますが、他にも食、人、スポーツなど多くの情報があります。毎回特集記事が掲載され、今号では「しばたの

街角こんぼす

職人」として9人が紹介されて興味深い内容になっています。

街角こんぼす株式会社
〒957-10056

新発田市大栄町7-1-19

TEL

0254-28-8438

FAX

0254-28-8439

E-mail: info@machikado.jp

お元気ですか



「味わい深い人生を！」 松尾 幸一 (五泉市)

早いもので、6月に会社を退職し、第2の人生がスタートして3ヶ月が過ぎました。数ヶ月前のこと、市の生涯学習事業「きなせや楽習大学」の中に「はじめてのピアノ もしもピアノが弾けたなら」の募集が目にとまり、迷うことなく申し込みました。実は、口に出した事はありませんが、ピアノを習いたいと心密かに長年思い抱いていました。しかし、初回に「受講後にピアノの卒業発表会があります」と説明を受けてびっくり。「楽譜も読めない、指も動かない、そんな自分が人前で発表会など出来るのだろうか？」と不安でいっぱいでした。ところが何とか来たのです！よき指導者と猛特訓の結果、両手を使い、足を使っの発表会が。私は長年「日本舞踊・民謡」をやっている中で、いろいろな感動を味わってきましたが、ピアノを通して格別な感動と喜びを頂き、これからの生き甲斐と目標がまたひとつ定まった思いです。来年の発表会では、個人の課題曲と友との連弾を予定し張り切っています。走り続けた50年に対して、時には道草をしながらゆっくりと「味わい深い人生を！」を送りたいと思っています。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

Network

にいがた生涯学習県民フォーラム

新潟県では、平成26年度「にいがた生涯学習県民フォーラム2014」を開催します。

- 1 主催 新潟県 新潟県教育委員会
2 フォーラムの概要 (日時) 平成26年11月27日(木)、28日(金)
3 会場 新潟ユニゾンプラザ (新潟市中央区上所2-2)
4 内容 県立生涯学習推進センター (新潟市中央区女池3-1-2)
5 その他 基調講演会、実践発表・トークセッション
オカリナ演奏、フラダンス、サトシンさんおはなし会
講演会、子ども読書フォーラム、ビブリオバトル
どなたでも参加できます。内容により会場が異なります。
無料シャトルバスがあります。

問い合わせ、申込み等詳細は下記へ
新潟県教育庁生涯学習推進課 TEL 025-280-5617
E-mail:ngt500060@pref.niigata .lg.jp

純国産クリーンエネルギー

ダムは、CO2を排出しないクリーンな電力を供給しています。また、都市住民の生活や農業・産業活動などに安定した水の供給を行い、集中豪雨等の災害時には住民の生命・財産を守る機能を果たすなど、国民の安心・安全にも役立っています。

新潟県ダム・発電関係市町村協議会
会長(阿賀町長) 神田 敏郎

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事

務局長のつぶやき
朝夕の犬の散歩は私の役割。天候が悪くなる冬の時期は、防寒具を着たり大変ですが天然毛皮の犬は影響なし。毎回、大喜びです。先日のあるテレビの番組では、犬が喜ぶ姿や「おすわり、お手」などを飼い主が見ると脳が60%活性化するのだとか。

お言葉。
「あなたもいつぱい散歩に連れて行ったらどうですか」と小さく私。ちなみに妻は、雨の時は「天が風邪を引く」といって散歩を止めます。「犬が風邪を引くか！南極のジロウ、タロウを忘れたか」と小さく私。一年で最も寒さを感じる時期です。風邪注意。(田原)